

共産主義内の「左翼的」な潮流への対応について

一八、第三インタナショナル第二回大会は、本大会の特別決定のなかで詳細に論駁されているような、階級および大衆との党の関係についての見解や、ブルジョア議会や極反動的労働組合に共産党が参加する義務はないという見解、そして、もっとも完全な形では「ドイツ共産主義労働者党」によって、また部分的には、「スイス共産党」、共産主義インタナショナル東ヨーロッパ書記局の機関誌であるウィーンの『共産主義』（『コムニスムス』）誌、いまは解散されたアムステルダムとオランダの若干の同志たち、ついでイギリスの若干の共産主義組織、たとえば「労働者社会主義連盟」その他、さらにアメリカの「世界産業労働者連盟」、イギリスの「職場世話役委員会」（Shop Stewards Committee）、その他によって擁護されている見解は、正しくないものとみとめる。

それにもかかわらず、第三インタナショナル第二回大会は、これらの組織のうちでまだ公式に加盟していない諸組織をただちに共産主義インタナショナルに加入させることが可能でもあり、のぞましくもあると考える。なぜなら、このばあいには、とくにアメリカとオーストラリアの「世界産業労働者連盟」や、さらにイギリスの「職場世話役」について言えば、われわれがここで当面しているのは深いプロレタリア的・大衆的な運動であって、この運動は、その基礎において、事実上共産主義インタナショナルの根本原則を基盤としているからである。このような組織内にブルジョア議会への参加についての誤った見解がおこるのは、自己の本質上小ブルジョア的な見解——無政府主義者の見解はしばしばこういうものである——を持ちこんでくるブルジョア出身者の役割によるというよりは、むしろ、大衆と結びついたまったく革命的なプロレタリアの政治的未経験のためである。

だから、第三インタナショナル第二回大会は、アングロサクソン系諸国のすべての共産主義的組織とグループにたいして、「世界産業労働者連盟」と「職場世話役」との第三インタナショナル加盟がすぐ実現しないばあいでも、これらの組織ともっとも友好的な関係をたもち、それらの組織やそれに共鳴している大衆との接近をはかり、前述した彼らの見解の誤りを、すべての革命の経験、とくに二十世紀の三次のロシア革命の経験の見地から、友好的に彼らに説明してやる政策をとるように、またこれらの組織と合同して単一の共産党をつくる試みをくりかえしておこなうことをやめないように、要請する。

一九、これに関連して本大会は、世界戦争のあとで、プロレタリアートの独裁とソヴェト権力にたいする態度の問題で無政府主義者のあいだに深い思想的分裂がおこっていることに、すべての同志諸君、とくにラテン系およびアングロサクソン系諸国の同志諸君の注意を促すものである。このばあい、しばしば第二インタナショナルの諸党の日和見主義や改良主義にたいするまったく正当な憎悪によって無政府主義のほうに押しやられたプロレタリア分子のあいだでこそ、これらの原則の正しい理解がとりわけみとめられる。しかも、彼らがロシア、フィンランド、ハンガリア、ラトヴィア、ポーランド、ドイツの経験を身近に知れば知るほど、ますます広くこの正しい理解はひろまっている。

だから、本大会は、すべての大衆的なプロレタリア分子が無政府主義から第三インタナショナルのがわにうつるのを全力をあげてたすけることが、すべての同志諸君の義務であると考えられる。本大会は、真の共産党の活動の成功は、とりわけ、彼らがインテリゲンツィ

ア分子や小ブルジョア分子でない、大衆的なプロレタリア分子の全員をどれだけ無政府主義から引きはなして自分の味方とすることができたかによって、はかられなければならないと、指摘する。

第 31 卷『共産主義インタナショナル第二回大会の基本的任務
についてのテーゼ』 P191-193

1920 年 7 月 4 日 1920 年 7 月発表

この任務にくらべると、共産主義内の「左翼的」な潮流の誤りをただすことは、たやすい任務であろう。多くの国には反議会主義が見うけられる。反議会主義は小ブルジョアジーの出身者がもってきたものだというよりも、むしろプロレタリアートの若干の前衛部隊が、旧来の議会活動にたいする憎しみから、イギリス、フランス、イタリア、すべての国の議会活動家の行状にたいする正当な、正しい、必然的な憎しみから、それを支持しているのである。共産主義インタナショナルは、指針をあたえなければならないし、同志たちにロシアの経験とほんとうのプロレタリア政党の意義をもっと身近に、もっとしたしく知らせなければならない。われわれの活動はこの任務を解決することにある。そして、プロレタリア運動のこういう誤りとたたかい、こういう欠陥とたたかうことは、改良主義者を装って第二インタナショナルの古い諸党にはいりこみ、それらの党のすべての活動を、プロレタリア的精神でなく、ブルジョア的精神で指導しているブルジョアジーとたたかうよりは千分の一もたやすいであろう。

第 31 卷『共産主義インタナショナル第二回大会』 P224

1920 年 7 月 19 日～ 8 月 7 日